



土屋建設（株）本社

- 本社所在地：静岡県伊豆の国市
- 事業概要：伊豆地域に根ざした建設会社として、公共工事を中心にライフライン・公共インフラの維持・点検・修繕までを、幅広く手がけています。
- 常時使用する従業員：84名
(グループ全体：2026年6月時点)
- 現在の売上高：31億円
(グループ全体：2025年5月期)
- 法人番号：9080101004834
- Web：
<https://www.izu-tuchiya.co.jp/>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役社長
土屋 昭

「街を創る・街を守る・街を支える」

土屋建設は「挙社一致」を掲げ、所々に、「創る・守る・支える」の実践を通じて、地域の「当たり前」を守り続けます。伊豆の地形・気候を熟知した現場力と、黒子として徹する誇りを胸に、平常時のインフラ整備から緊急時の復旧まで一貫して対応します。地域に循環する価値（良質な構造物、安定雇用、賃金と教育、迅速な防災対応、環境配慮型の資材供給と農業）を最大化します。量の追求ではなく、質に根ざした成長を実現します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

- 2036年の売上高達成に向け、年率13%超の成長を目指す。**
- ・営業利益率の安定的確保
 - ・公共工事入札における総合評価点の継続的向上
 - ・災害対応力の強化（出勤体制・重機保有・人員配置の最適化）
 - ・地域インフラの「守り手」としての信頼性向上
 - ・社員が誇りを持ち、協力会社と一体となる体制の強化

課題

- ・人手不足と技能継承の遅れ
- ・資材・燃料の原価上昇、原価ブレ要因の増大
- ・入札競争激化、技術提案点の平準化による差別化難度上昇
- ・地形・気象に起因する制約、工期・安全リスクの顕在化
- ・砕石事業における環境配慮（騒音・振動・粉じん・景観）
- ・農業事業の収益変動とブランド認知の地域外展開

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・公共工事、民間工事の受注拡大と地域インフラ整備の強化
- ・先進性・競争力の強化（生産性・技術力・ブランド力）
- ・DX・ICT施工の全面導入、施工管理のデジタル化
- ・技術者育成の体系化（若手採用強化、資格取得支援）
- ・海外進出としてモンゴルにおける事業の確立
- ・建設会社のM&A（中堅土木・建築会社の吸収）

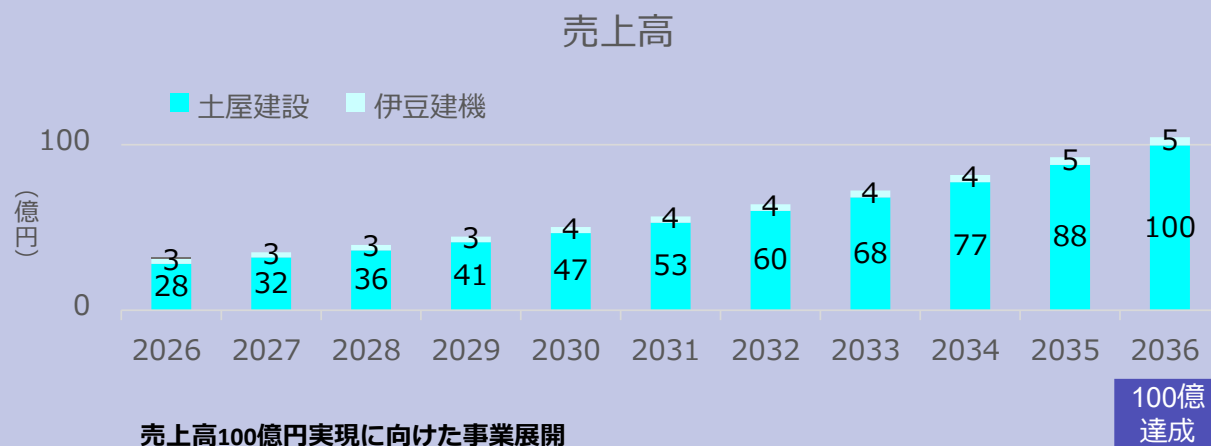
実施体制

- ・経営層直轄の「100億円プロジェクト本部」を設置
事業戦略・人材戦略・DX推進・財務管理を統合的に管理
- ・部門横断の専門チーム編成
土木・建築・砕石・農業・重機の各部門が連携し情報共有を強化
- ・協力会社との連携強化
災害時即応体制、施工品質向上、技術研修を共同で実施
- ・PDCAの徹底運用
四半期ごとに進捗評価を行い戦略・体制を柔軟に見直す

売上高100億円実現の目標とグループ体制

売上高100億円実現の基本方針

100億円の達成は単なる売上拡大ではなく、
「伊豆地域のインフラを守り抜くための総合力を強化する」という使命に基づくものです。
土屋建設グループが一体となって、施工力・災害対応力・地域貢献力を最大化することで、地域の
“守り手”としての役割をさらに強固にする。これを100億円達成の根幹方針とします。



- ①公共工事の受注拡大（経費強化×技術力向上×総合評価向上）
CPD取得推進、ITC施工、品質安全環境の評価項目の改善
- ②災害対応力の強化（施工実績×重機保有×グループ一体運営）
豊富な施工実績、防災協定締結による自治体との連携
- ③ホールディングス化（事業と資産の分離×グループ化×新規事業投資）
建設・重機・農業・資源循環・海外新規事業（モンゴル・東南アジアとの
農業・建設・物流連携）、M&A

TUCHIYA
GROUP

土屋建設株式会社
伊豆建機有限会社

【展開事業】

土木・建築工事業、砕石事業
重機事業、農業、資源循環事業
海外新規事業、M&A事業